

<p>アイリッシュ・セター</p> 	<p>原産国はアイルランド。 活発で、精力的な犬種です。そのため戸外での運動を必要とします。他の大方のコンパニオン・ドッグに比べて走るのが速く、他の犬を見つけては遊び相手にしようとし、きつと、他の犬の回りをぐるぐる走り回って遊ぶのが好きなのでしょう。元気いっぱい外交的な性格です。晩成型で、陽気な犬なので、落ち着きが無くやたらと興奮しやすい犬という不本意な評判もあります。 眼は楕円形で優しい表情をしています。 被毛は絹状で長く、冬季にはアンダーコートがたっぷりと生えます。</p>
<p>アメリカン・コッカー・スパニエル</p> 	<p>原産国はアメリカ合衆国。 愛情に厚く、アメリカ犬の中では最も人気のある犬種で、祖先はイングリッシュ・コッカー・スパニエルの実用犬。アメリカン・コッカー・スパニエルを実猟犬として利用する事はこれまでも何度か試みられてきましたし、事実、この犬にも狩猟本能は残っています。しかし、その人気は、なんと言っても愛玩犬としての温和で愛想の良い性質、その美しさと愛らしさは、北米や中南米の各地ばかりでなく、日本でもよく認められています。</p>
<p>アラスカン・マラミュート</p> 	<p>原産国はアメリカ合衆国。 外観はオオカミに似ていますが、アラスカン・マラミュートは人なつっこい犬です。過度に感情を表に出したり、威厳を示そうとしたりする事もなく、知っている人間や犬とは喜んでじゃれ合います。一見ハスキーと似ていますがハスキーよりも体が大きく、かつて、狩猟犬としても用いられていました。たくましいこの犬は分厚い胸と抜群のスタミナを持っています。カナダやアメリカでは家庭のコンパニオン犬として人気があります。この犬種は活発な動きを特徴とし、犬ぞりレースではその才能を遺憾なく発揮します</p>
<p>アフガン・ハウンド</p> 	<p>原産国：アフガニスタン 犬中心の生活ができる人／自立心が強くて人見知り。外ではすましてツンとしているタイプなんだけど、ホントはすごく寂しがり屋。ひとりぼっちにされるとすぐに元気が無くなっちゃう。それと毛のお手入れや運動には、いろいろと手間がかかるんで、いつも一緒に居てくれる、犬生活どっぷりという人がいいな。一緒にいられるならばマンションでも文句は言いません。あまり大声出す方ではないからね。でも咬み癖がある仲間もいるので、子供はちょっと苦手。ワタシにピッタリな、おしゃれな若夫婦なんて理想的だわ。19世紀までは「未知の犬種」／旧約聖書に書かれた「ノアの箱舟」に乗った犬とも言われ、古くは古代エジプト王朝の時代、紀元前4000年頃から飼われていたとされる歴史の古い犬。その後アフガニスタンに渡り、遊牧民が砂漠や山岳地帯でガゼルやヤマジカなどを狩るのに使っていた。限られた地域でのみ飼われていた犬だったので、19世紀まで西欧文明諸国には未知の犬種であったが、アフガニスタンに駐留していたイギリス軍人によりヨーロッパに広められて、その東洋的でエキゾチックな魅力で一躍人気となった。離れたところにいる獲物を自分で見つけて追いかけるゲイズハウンド（視角型獣猟犬）の部類に属するため、自分で物事を判断して行動しがちな独立心の強い犬種である。</p>
<p>秋田犬</p> 	<p>原産国：日本 厚みがありピーンと立った耳は体のわりに小さい。表情に愛嬌はないが、素朴な雰囲気を持ち、堂々とした体格は大型西洋犬とは違った独特の魅力がある。天然記念物に指定された、海外でも人気の大型犬／日本犬の中では最大の犬種。1931年には天然記念物に指定されている。東北地方で古くから猟犬として使われていた秋田マタギという中型の犬が祖先で、昔の大館城主や旧家が闘犬として大型化をはかるために土佐犬やマスティフなどの大型犬と交配して、100年程前に完成した。昭和に入って闘犬が禁止されると、闘犬の持つ攻撃性を押さえるように改良され、現在は家庭の番犬として愛されている。忠実な性格は日本人好みで、有名な「忠犬ハチ公」の話などこの犬にまつわる美談も多い。戦後はアメリカ兵が持ち帰り「アキタ・ドッグ」「ジャパニーズ・アキタ」と呼ばれて海外でも人気がある。</p>
<p>イングリッシュ・コッカー・スパニエル</p>	<p>原産国はイギリス。 順応性の高い実用犬です。東西ヨーロッパやイギリスの各地で、家庭愛玩犬として抜群の人気があります。眼はよく澄んでいて茶色がかっています。そして優しい眼差しをしています。頭部は気品があり、鼻鏡は広く、よく発達しており、優れた嗅覚を発揮しま</p>

	<p>す。前肢は骨太で、がっしりとしており、かつ短いので、力が集中できます。難を言えば、遺伝性疾患に悩まされます。眼球の充血、皮膚病、腎臓病、行動異常など。従って、コッカー・スパニエルを購入する時には、前もって血統の詳細を確認しておいた方がいいでしょう。主に愛玩犬として繁殖された犬種ですが、野外実地競技でも、十分な働きをします。</p>
<p>イングリッシュ・スプリンガー・スパニエル</p> 	<p>原産国はイギリス。 おそらく、あらゆる実用スパニエルの起源となる犬種です。スプリンガーとコッカーが別々の血統に分かれたのは19世紀後半になってからの事です。 底知れないスタミナを持つガンドッグ。池知でゲームのフラッシングをしたり、公園でテニスボールを回収したり、とにかく体を動かすのが大好き。体の大きさに比べて足長で力が強く、常に精神的、肉体的な刺激を与えてやる必要があります。それを怠ると、人間や家畜に危害を加えるようになる事があります。現在イギリスで最も人気の高いスパニエルとなっていますが、鳥獵能力はアメリカに渡ってから初めて認められました。実用とショー用にはっきり分かれています。都会生活に染まったものでも、おそらく本来の作業能力は失っていないはずで</p>
<p>イングリッシュ・セッター</p> 	<p>イギリス 体長：60cm あまり、体重：25～30kg ガンドッグ最古の一種。穏和で活発な性格ですが、さびしがり屋なので、家族との接触を大切にしましょう。健康的に問題はなく、性格も温厚で活動的な犬。十分な運動ができれば都会での生活も可能である。適切なグルーミングも必要である。鳥獵犬では最古の犬種／もとは15世紀にスパニッシュ・ポインター、ウォーター・スパニエル、スプリンガー・スパニエルなどを交配させて作られた。ガンドッグ（鳥獵犬）の中では最古の犬種の一つ。イギリスでは400年も前から狩猟に使われていたとされるが、19世紀にエドワード・ラヴェラックという貴族が、現在の気質の穏やかな犬に確立した。しかし北欧の数カ国では現在も昔ながらの実獵犬タイプが好まれていて、イギリスのものより軽量の犬が多いようだ。</p>
<p>ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア</p> 	<p>イギリス・スコットランド西部 体長：25cm くらい、体重：7～10kg 古くからイギリスを代表する犬の一種であった。純白の毛も人気のひとつである。 とにかく家族とともに遊ぶのが大好き。行儀もよく、利口で物事の飲み込みも早い。白い毛をいつもきれいに保つために、グルーミングには念を入れてあげたい。 サイズも手ごろだし、性格もいいので室内犬としても問題はない。</p>
 <p>エーデル・テリア</p>	<p>原産国はイギリス ストレートか多少ウェーブがかかった粗いワイヤー状の毛を持っています。聡明で頑健な犬だから付き合やすい犬です。</p>
<p>狆（ちん）</p> 	<p>原産国は日本。 小さいけれど元気のいいこの犬は、丈夫で自立心に富んでいます。性格は明るくて穏やか。顔以外は絹状の長い被毛で覆われており、適度にふさ毛の生えた尾は背中の方に流れ、V字型の小さな耳は、やや前方に流れています。最初にヨーロッパに渡ったのは17世紀で、ポルトガルの船乗りがブラガンザのキャサリン女王に献上した時でした。ヴィクトリア女王は黒船来航後のペリー提督から、ひとつがいの狆を譲り受けました。日本でも上流家庭の婦人達の間でこの犬が飼われてきましたが、欧米でも上流家庭の愛玩犬となっています。</p>
<p>オーストラリアン・キャトル・ドッグ</p>	<p>原産国はオーストラリア。 今日ではもう死滅してしまいましたが、イギリスでは家畜の肢に噛みつくブルー・ヒーラーという犬種が、船着場で羊や牛を船に追い込むのに使われていました。オーストラリアン・キャトル・ドッグはブルー・ヒーラーとは起源は全く異なりますが、非常によ</p>

	<p>く似ています。オーストラリア人の開拓者トーマス・スミス・ホールは過酷な労働条件に十分に耐えられる頑丈な犬を必要として、静かに腹ばいになって獲物に近づき、それから獲物に噛みつくというディンゴの能力を利用して交配し、現在のキャトル・ドッグに非常に近い犬を開発しました。この犬種は生まれつき注意深い性格で、他の動物や人間に引き合わせる場合には、その発達段階の初期に行わなければなりません。</p>
<p>甲斐犬</p> 	<p>原産国：日本 中型犬としてはやや小さめ。しかし山での生活に適した強い体をしており、暑さ寒さにも強い。持久力、忍耐力も備わっている。別名「甲斐の虎犬」と呼ばれ、子犬の時には単色でも、成長するにつれて虎のような模様が入るようになりところどころに斑点ができる。秋田犬に続いて天然記念物に／山梨県原産。イノシシやシカ狩りに用いられてきた獣猟犬で、他の犬との接触が少なかったため純血が保たれてきた、いかにも日本犬らしい犬。1933年には、秋田犬に続いて天然記念物に指定されている。狩り際にはあまり無謀な攻撃はせず、冷静に身の安全を考えながら獲物をしとめて主人を待つという。</p>
<p>ギャバリア・キング・チャールズ・スパニエル</p> 	<p>原産国はイギリス。 キャバリア・キングは、この10年の間に人気は著しく高まりました。性格は友好的で愛情に厚く、エネルギッシュ。天気が悪ければソファの上で丸くなって寝るのを好み、機会があれば何kmでも歩いたり走ったりします。いろいろな面で、都会人にとって理想的なコンパニオン・ドッグです。耳は長く、ふさ毛がたっぷり生えています。体は長い絹状の被毛で、いく分波打っているものの、巻き毛にはなっていません。まっすぐで骨太の前肢にも、絹状のふさ毛が生えています。</p>
 <p>キング・チャールズ・スパニエル</p>	<p>原産国はイギリス。 種にも似た愛らしいファニーフェイスを持っています。丸く大きな離れがちの目と上向きについた短い獅子鼻、耳は低い位置から頬に沿うようにして長く、飾り毛がついています。はつらつとして、活発で丈夫。明るく朗らかで温厚な犬です。</p>
<p>紀州犬</p> 	<p>原産国：日本 狩猟犬の力強さを象徴するような引き締まったボディ、太いしっぽ、丈夫な首が印象的。目はややつり上がった三角形で、ピンと立っている耳はやや前に傾いている。神聖な白い犬／起源前から紀伊山脈一帯でイノシシや鹿などの獣猟犬として用いられてきた。イノシシは、よく吠える白い毛をもつ犬に向かってくる性質があるとされたことから、この犬が重宝されたと言われている。また白い動物は神聖化されていたため、古い書物には紀州犬と思われる犬の物語を多く見ることができる。といっても紀州犬の全てが白毛の訳ではなく、現在は全体の約80%ぐらいとされるが、明治以前のは約30程しかおらず、赤毛や虎毛、ごまなどの方が多かったという。昭和9年には天然記念物に指定されている。</p>
 <p>クランバー・スパニエル</p>	<p>原産国はイギリス 胴長短足で重心の低い体形はグランバー・スパニエル独特のスタイルです。忠実で、懐の深い一面がある温和で穏やかな性格の犬です。</p>
<p>グレート・デン</p>	<p>原産国：ドイツ 非常にスリムで筋肉質、格闘家やアスリートのような引き締まった体つきをしている。頭部は箱型で長く、耳は断耳されピンと立っている。ドイツ犬なのに「大きなデンマークの犬」／ドイツの国犬で、ドイツではドイッチェン・ドッグ＝ドイツの犬と呼ばれ</p>

	<p>ているが、ドイツ人嫌いのフランス人がドイツの犬と言うことをためらい、代わりに「大きなデンマークの犬」と皮肉を込めて呼んだことから、それが英訳されていつしかグレート・デンという名前になってしまった。遠い先祖は起源前2000年のアッシリアにいた大型犬といわれているが、直接の先祖は14世紀ごろイノシシ狩りに使われていたボアハウンドで、そこにマスティフやグレーハウンドが交配されて作られた。王様や貴族が欲しがった犬らしく、気品の高い外観。</p>
<p>グレート・ピレネース</p> 	<p>原産国：フランス どっしりと骨太で、まるで白熊のような姿。頭部は大きく、くさび型。アーモンド型の目まわりには、黒い縁取りがある。耳は頭の割には小さく垂れている。被毛はみっしりと厚い二重構造で原則として純白だが、灰色、タン、パジャーいずれかのマーキングが入っているのは許容範囲とされる。ピレネー山脈で3000年前から働く犬／古代バビロニアの遺跡にもよく似た犬が描かれているという程、古い犬種である。フランスのスペインとの国境地帯に広がるピレネー山脈の谷あい、3000年もの間、荒っぽい山仕事を手伝い、オオカミや熊から羊を守り、冬にはソリを引いて...と山で暮らす人々には欠かせない存在であった。18世紀にはフランスの宮廷でも飼われ、お城の番犬としてはもちろん、優雅な姿を楽しむ愛玩犬としても貴族達の間で好まれた。</p>
<p>コリー</p> 	<p>原産国：イギリス 頭部はくさび型でマズルが長い。耳は先が垂れている半直立。歩き方は優雅な「モデル歩き」で、一本の線上を踏んでいくかのように歩く。作業犬なのでさりげなく威厳があるバランスのとれた外観をしているが、決して荒々しい武骨な印象を与えてはいけない。コリーと言えばエプロンをかけたような飾り毛がある長毛のラフ・コリーを指すことが多いが、短毛のスムース・コリーという犬もいる。ヴィクトリア女王に愛された犬／16世紀頃からスコットランドのハイランド地方で、顔と脚が黒い羊（コレイ）を市場安全に運ぶ作業を手伝っていた犬。しかし当時の形は今のボーダー・コリーに近かったようで、現在のコリーになるまでにはボルゾイの血が入れられたのではないかと推測されている。19世紀にヴィクトリア女王がスコットランドから持ち帰ったのを機に人気が出て、それまでの牧羊犬としての役目だけでなく、ドッグショーにも多く出場するようになった。世界的な人気になった切っ掛けは、言うまでもなく「名犬ラッシー」である</p>
<p>ゴールデン・レトリバー</p> 	<p>原産国はイギリス。 開放的だが責任感強い。おとなしいが警戒心に富み、敏感で穏やか。 色々な意味で理想的な家庭愛玩犬です。 ゴールデンレトリバーは用途に応じて、色々な血統があります。ガンドッグ用、野外実地競技用、ショーや家庭愛玩犬用、そして、盲人や身体障害者の介護のために訓練された犬を生み出した血統もあります。 性格は穏やかで、噛みつきたりする事は滅多にありません。特に子供に対しては辛抱強い犬です。被毛はクリームかゴールドで加齢と共に薄くなります。</p>
<p>シェットランド・シープドッグ</p> 	<p>原産国はイギリス。 別名 シェットランド・シープドッグ シェルティーは、もともと羊が庭の草を食べるのを防ぐのに、スコットランドのシェットランド諸島で使われていた犬です。この犬種は、ラフ・コリーとスコットランドのシェットランド諸島にいる犬を交配したものと考えられています。ラフ・コリーによく似ていますが体はコリーよりひと回り小さい。日本だけでなくイギリスや北アメリカでも高い人気を誇っています。今日では使役犬として使われる事は滅多にありませんが、護衛犬及びハーディング・ドッグとしての数々の本能はいまだに兼ね備えていますので、飼い主の家を守るのにその本能を十分に発揮してくれるでしょう。</p>
<p>ジャーマン・シェパード</p> 	<p>原産国はドイツ。 世界中で最も数の多い犬種です。19世紀末に熱心なブリーダー達によって、ロングヘアード、ショートヘアード、ワイアーヘアードの犬を使って、エレガントで反射能力に優れ、従順かつ見事な容姿を持った、ジャーマン・シェパードを作出しました。 1915年までは、ロングヘアード及びワイアーヘアードが存在しましたが、現在、ほとんどの国では、ショーで承認されるものはショートコートのみです。一般的によく見られるのは黒&タンのショートヘアードですが、他にクリームのロングヘアードや白のショートヘアードなどがいます。 性格は温和で、信頼性が高く、反射能力にも優れ、従順性を持つ優れた犬種です。</p>
<p>シベリアン・ハスキー</p>	<p>原産国はシベリア。 優美な体格をしたシベリアン・ハスキーはそり犬の中では、最も小さく軽量の犬種です</p>

	<p>が、動きは機敏で活動的。疲れを知らない使役犬です。この犬種は滅多に吠えませんが、オオカミに非常によく似た遠吠えをします。もともと遊牧民であるイヌイトに牽引用として用いられていましたが、19世紀の毛皮商人たちによって偶然発見され1909年に北アメリカに持ち込まれました。現在、カナダとアメリカ合衆国で非常に人気があるシベリアン・ハスキーには、実に様々な毛色の犬がいます。尾は厚い毛に覆われており、毛が生え変わる季節には手入れが必要です。眼の色も、ブルー、褐色、ハシバミ色、まだら色が許されている数少ない犬種のひとつです。この犬種は、気品があり、おとなしい性格ですので、非常に優れたコンパニオン犬になります。</p>
<p>柴犬</p> 	<p>原産国は日本。 日本の土着犬の中で、最も小さいこの犬種は何世紀にも渡って、日本の山陰地方に生息していました。日本で最も人気のある柴は、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカでもその数が増えつつあります。かつては成犬になっても歯が発達しないという傾向がありましたが、これは淘汰のための犬種改良によって改善されました。柴犬は滅多に吠えず、犬にはめずらしいキャットという声を出します。がっしりとした、やや独立心の強いこの犬は、経験と忍耐のある人にとっては、魅力的な犬種です。</p>
<p>シーリアム・テリア</p> 	<p>原産国はグレート・ブリテン。 この犬はもともとアナグマやカワウソウ猟のために様々なテリアをもとに選択改良されたものです。そして、穴の中でも、地上でも、水中でも活躍できる犬が作り出されました。それがシーリアム・テリアです。しかし現在では、もともとの目的には用いられていません。尊大で独立心の強い魅力的なコンパニオン犬であると同時に、ショー・ドッグとしても異彩を放っています。この犬がもともと猟で活躍していたことは、他の犬に対してしばしば見せる攻撃的な態度からよく分かります。現在でも特に雄は、しっかりとした経験者による訓練が必要です。1930年代には特に北アメリカで極めて人気が高い犬でした。しかし今日では英語圏以外の国々ではほとんど知られておらず、原産国でも滅多に見られなくなりました。</p>
<p>シー・ズー</p> 	<p>原産国は中国。 シー・ズーは中国の王室で繁殖されました。もともと王室愛玩犬でした。性格は人なつっこく、陽気にはしゃぎます。世界各地で人気があるのはそのためでしょう。鼻鏡に生えた被毛は、上向きに伸びる傾向があり、頭頂部から伸びた被毛と一緒になる事も少なくありません。黒い鼻鏡の周囲には独自の口髭が伸びています。</p>
<p>ジャック・ラッセル・テリア</p> 	<p>イギリス 体長：cm、体重：kg 賢くて活動的。アナグマやドブネズミなどの害虫猟犬として活躍してきた。持久力が強く、ランニングなどの運動のパートナーに最適。長寿犬でもある。もともと勇敢な猟犬であり、子供がいる家庭ではしつけに気を付けていただきたい。目の疾患を持つことがあるが、おおむね健康な犬である。活動的な犬であり、十分な運動に心がけたい。ダブルコートであり、上・下毛とも抜ける。幼犬時から十分なしつけが必要である。</p>
<p>シャー・ペイ</p> 	<p>原産国は中国。 世界中には様々な犬がいますが、シャーペーのような風貌を持つ犬は他にはいません。貝殻状の耳、蝶のような鼻、老人のような表情の顔、水牛のようにたくましい首、馬のような臀部、竜のような肢、というように非常に特徴的な容姿の持ち主です。チャウチャウの近縁でもあります。シャーペーは時として、攻撃的になる事もありますが、犬に対するアレルギーが少なく、シャンプーもまめに行える人に向く犬です。</p>
<p>スムース・フォックス・テリア</p>	<p>原産国はグレート・ブリテン。 イギリスでは、かつてそれぞれの州に独特のフォックス・テリアが生息していました。おそらく絶滅した白い毛色のチェシア・テリアとシュロップ・テリアの血がビーグルの血と共にこの犬種に入っていると考えられています。かつては、典型的な使役犬でしたが、今日ではしばしば頑固で強情な面を見せることはあっても、魅力的なコンパニオン犬として飼われることが多くなっています。</p>

	<p>この犬種は、よく動き、リードをつけずに運動することを好むため、田舎向きの犬であると言えます。</p>
 <p>スコティッシュ・テリア</p>	<p>原産国はイギリス 大きな頭部とずんぐりとしてがっちりした体躯、それに似合わぬ短い四肢。小型犬ながら 中型犬と思える相貌。言葉をよく理解し、飼い主の挙動から次に何が起るのか察知する頭の良い犬です。</p>
 <p>セントバナード</p>	<p>原産国：スイス 大きくてどっしりすわった頭部。頭は大きく、頭の周囲は鼻から後頭部まで長さの2倍以上ある。マズルは角張っていて、唇は垂れ下がっているが、過度に垂れ下がってはいけない。遭難者を安全な場所まで引っ張る太くて筋肉質の首。被毛は短毛（スムース）と粗毛（ラフ・コート）の2種類がある。雪山での遭難者救出で大活躍／スイスに侵攻した古代ローマ軍が残っていたマスティフタイプの大型犬が祖先と言われる。アルプス山中の遭難者を探手伝いをしてた修道院・サン・ベルナル（英語読みでセント・バーナード）の僧侶が、その仕事に適した犬を作るために 400 年もの間改良を加えて作り出した。寒さに凍えた遭難者への気付け薬代わりに、首にブランデーを入れた樽をぶら下げて、雪嵐にも怯まずねばり強く捜索にあたったという。生涯に 40 人もの遭難者を救助し、41 人目を救助しようとした時にオオカミと間違えられて射殺されたバリーの話は有名で、現在でもはく製となってベルンの自然史館に保存されている。</p>
 <p>ダックスフンド</p>	<p>原産国はドイツ。 ダックスフンドという国際名はアナグマ犬という意味で、これらの犬のもともとの用途を表しています。これらの犬は 100 年前から「穴にもぐる犬」として改良されてきました。スタンダード犬はアナグマやキツネを追って穴にもぐりますが、ミニチュア犬はウサギを追います。ショー・ドッグはぶ厚い胸と短い四肢を持っていますが、仕事をする犬は胸もそれほど厚くなく 四肢も長くなっています。現在でもドイツでは使役犬として用いられていますが、ほとんどのダックスフンドは家庭のコンパニオンとして飼われています。スムースヘアード・スタンダード・ダックスフンド、ロングヘアード・スタンダード・ダックスフンド、ワイアーヘアード・ミニチュア・ダックスフンド、などがあります。人なつこく、社交性にとんだ性質を持っています。</p>
<p>ダルメシアン</p> 	<p>原産国はバルカン地方、インド。 現在では、もっぱらコンパニオンとして飼われていますが、かつては何世紀にもわたって、優れた作業犬として活躍した時代があります。実猟犬、回収運搬犬、鳥猟犬。もっと時代が進んでからは、サーカスの曲芸に出演していました。交通手段が発達するまでは馬車犬として使われていました。馬が引く馬車に寄り添って歩き、混雑している場所ではあらかじめ先に進んで人混みを分けるという仕事をこなすのは犬種の中でもダルメシアンにおいて他にはありません。とても賢い犬です。 ほとんど変わらず交友的な態度で人間や他の動物に接しますが、雄犬だけが他の雄犬に対して攻撃的になる事があります。</p>
<p>チワワ</p> 	<p>原産国はメキシコ。 チワワは、小柄で華奢な体形ながら、鋭敏で勇気ある性質を持っています。ボディは長く、よく引き締まっています。大きな立ち耳は後方に傾いていて、眼は比較的大きく、突出しています。体重わずか 1~3kg という本質的に小型愛玩犬（抱き犬）です。わずかな風に吹かれても震えを見せ、人間に愛玩されている事を何よりも好みます。短毛種と耐寒性のある長毛種のいずれも人間にユーモアと慰安をもたらし、忠誠と友情を捧げてくれます。</p>
 <p>チャイニーズ・クレステッド・ドッグ</p>	<p>原産国は中南米およびアフリカ ヘアレス（無毛）とパウダーパフ（有毛）の2タイプに分かれている所がチャイニーズ・クレステッド・ドッグの大きな特徴です。パウダーパフは二重の直毛で全身被われています。ヘアレスは、無毛なのですが、頭部、尾、四肢の指には長い毛を持っています。従順で、明るく活発な犬です。自尊心が強いようです。</p>